

Influenza at the human-animal interface

動物由来インフルエンザ情報

2014年2月25日現在の概要と評価

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_25February14.pdf?ua=1

1 鳥インフルエンザ A (H5N1) 型ウイルスによるヒトの感染症

2003 年から 2014 年 2 月 25 日までに WHO に公式に報告のあったヒトの鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染症：発生国：15 カ国（訳注）、検査確定症例数：658 人、死者数：388 人。

WHO の動物由来インフルエンザ情報について最終 2014 年 1 月 24 日に更新後、新たに 8 例のヒトのインフルエンザ A(H5N1)ウイルス感染の検査確定症例が発生し、WHO に報告（ベトナムから 1 人、カンボジアから 5 人および中国から 2 人：詳細は表 1 を参照）。

カンボジアは、5 例の確定症例と 1 例の可能性例を報告。症例はすべて子供。1 例はコンポントム (Kampong Thom) 州の 5 才の男の子で、3 例はクラチエ (Kratie) 州の子供（8 才の男の子、2 才の女の子（男の子の兄妹、可能性例）および 4 歳の男の子）。兄妹は重症の呼吸器感染症で死亡。しかし、検体は 8 才の男の子からのみ採取。4 才の男の子は、兄妹の接触者を追跡中に発見。1 月中旬に村で多数の家禽が死亡したことが報告されていること、また、すべての子供が死亡した家禽や病気の家禽に直接接触があったことから、これらの家禽への接触が共通の感染源と推定。残り 2 人は、コンポンチャム (Kampong Cham) 州内の異なる地域の 10 才の女の子と 11 才の女の子。二人とも軽症で、完全に回復。彼女らの近所で、家禽の集団死亡例の報告あり。

中国は、2 人の症例を報告。一人は広西チワン族自治区の 75 才男性で重症の肺炎を発症し、もう一人は湖南省の 5 才の女の子で完全に回復。

ベトナムは、ドンタップ (Dong Thap) 省の 1 月 22 日に発症した 1 人の死亡例を報告。

○ 鳥インフルエンザ A (H5N1) 型ウイルスの公衆衛生上のリスク評価

インフルエンザウイルスは絶えず家禽を循環しており、家庭で飼育している感染した家禽や汚染環境に接触したヒトで、散発的感染や小規模のクラスター（集積）が起こる可能性あり。現在のところ、このインフルエンザ A (H5N1) ウイルスは簡単にはヒトに感染しないので、このウイルスが地域社会に拡散するリスクは低い状態。

2 他の非季節性のインフルエンザウイルスによるヒトの感染

○ 中国における鳥インフルエンザ A (H7N9) ウイルスによるヒトの感染

WHO はこの事態をち密に監視し、別途リスク評価を掲載しているので、更新情報は以下を参照してください。

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/Risk_Assessment/en/index.html

○ 中国における鳥インフルエンザ A (H10N8) によるヒトの感染

2013 年（訳注2）1 月 24 日に WHO が動物由来インフルエンザ情報を更新して以降、鳥インフルエンザ A (H10N8) ウイルスによる 2 例のヒト感染症例が、中国から WHO に報告。2 人とも広西チワン族自治区の住人。1 人目は 55 才の女性。1 月 8 日に発症し、重症の肺炎で 1 月 15 日に入院。発症する 4 日前に生鳥市場（生きた鳥が販売されている市場）に訪問。2 人目は 75 才の男性。基礎疾患があり、2 月 4 日に入院後、2 月 8 日に死亡。発症する前に家禽との接触歴あり。

表1 鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染によるヒトの検査確定症例
(2014年1月24日～2014年2月24日)

発生国	発生地	年齢	性別	発症日	入院日	オセルタミビル 治療開始日	死亡日	接触歴
ベトナム	ドンタップ省	60	女性	14年1月22日	14年1月27日	NA*	14年1月28日	アヒルの処理 と喫食、娘 婿の家で家 禽の死亡
カンボジア	コンポントム州	5	男性	14年1月24日	14年1月30日	14年1月31日		近所で死亡 した鶏の調 理
〃	クラチエ州	8	男性	14年1月31日	14年2月6日	14年2月7日		鶏の調理の 手伝い、近 所で死亡鶏
〃	〃	4	男性	14年2月8日	14年2月13日	14年2月13日		近所で死亡 鶏
〃	コンポントム州	10	女性	14年1月26日	14年2月20日	14年2月20日	回復	村で死亡又 は病気のア ヒル、アヒ ルの調理
〃	〃	11	女性	14年2月9日	14年2月20日	14年2月20日	回復	近所で死亡 鶏
中国	広西チワン族 自治区	75	男性	NA*	14年1月29日	NA*		家禽との接 触
〃	湖南省	5	女性	14年2月17日	NA*	NA*	回復	NA*

*: 該当する、もしくは利用可能なデータなし

Number of Confirmed Human H5N1 Cases
by month of onset as of 2014-02-26

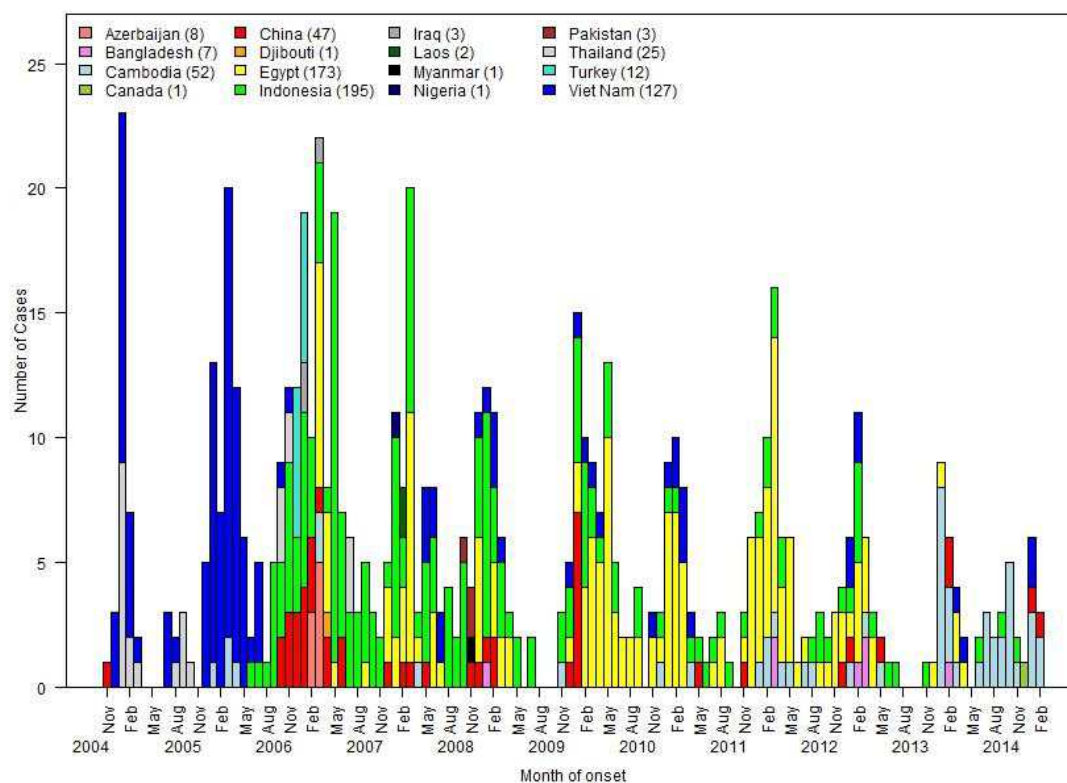


図1 国別・発症月別ヒトの鳥インフルエンザA (H5N1) 症例の流行曲線

中国は2013年(訳注3)12月以降、鳥インフルエンザA (H10N8) ウイルスによるヒトの感染で、3例を報告。いずれも広西チワン族自治区の住人。

1例由来のウイルス分離株についての遺伝子情報は利用可能。すべての遺伝子が鳥類由来の遺伝子であり、現在中国の家禽で広範囲に循環している鳥インフルエンザA(H9N2)ウイルス由来の内部遺伝子であることを示唆。このウイルスは、抗ウイルス薬のノイラミニダーゼ阻害剤に感受性。

○ 鳥インフルエンザA (H10N8) ウイルスに対する全体的な公衆衛生上のリスク評価

現在の疫学情報によると、これらの症例はお互いに関連していないように推定される。地域での家禽の鳥インフルエンザA (H10N8) ウイルスの流行や分布に関する情報は限られているため、公衆衛生への脅威についての評価は困難。ヒトが暴露する鳥の集団にウイルスが循環し続ける限り、更なる鳥インフルエンザA (H10N8) ウイルスによるヒトの感染症例の発生は予想外のことでない。

○ 潜在的な公衆衛生上の脅威である鳥インフルエンザウイルスによる動物での集団発生

予測どおり、今年の流行期の鳥類の集団発生の報告数がわずかに増加していることが広域的に確認。集団発生に関する過去の季節性パターンに基づき、鳥類の集団発生数の増加は北半球の冬季を通して続いていくと予測。

さらに、中国での鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスと関連したヒトの感染症の出現により、中国、中国の近隣諸国、そして世界的に、ヒトと動物の両方において、非季節性亜型のインフルエンザのサーベイランスを強化。したがって、さらに多くの鳥インフルエンザA (H5N1)、A (H7N9)、その他多様な亜型のインフルエンザウイルス、さらに再集合ウイルスが、今後数ヶ月間、ヒトや動物で検出されると予測。

インフルエンザウイルスは常に進化する性質があるため、WHOは公衆衛生や動物衛生に影響する恐れのあるウイルス学的、疫学のおよび臨床上的の変化を探知するために、世界的な監視の重要性を強調。早期に変化の探知ができるように、WHOは平常時のインフルエンザサーベイランスを強化することをすべての加盟国に勧奨。非季節性のインフルエンザウイルスによるすべてのヒトの感染症は、世界保健規則(2005)に則ってWHOに報告され、動物やヒト由来のインフルエンザウイルスが、適切な動物やヒトの衛生にかかわるインフルエンザレファレンス検査施設で十分な解析を行うことが重要。

平成26年3月7日

滋賀県衛生科学センター
健康危機管理情報センター 仮訳

訳注：原文では「発生国数15」となっているので原文のままとしたが、図1では発生国数は16

訳注2：原文では2013と記載されているが、最終更新は2014年1月24日である。

訳注3：原文では2014と記載されているが、2013年とした。